

平成20年度第2回広島市スポーツ振興審議会 会議録

開催日時

平成21年3月24日(火) 午前10時～午前11時45分

開催場所

広島市役所議会棟3階第1委員会室

出席者

1 委員(20名中16名出席)

東川会長、小野副会長、天野委員、越崎委員、亀田委員、阪田委員、崎田委員、田川委員、中本委員、鍋島委員、西野委員、萩原委員、播野委員、本川委員、本谷委員、山本委員
(欠席: 宍戸委員、曾根委員、満田委員、山野井委員)

2 オブザーバー(3名中1名出席)

新出オブザーバー
(欠席: 中野オブザーバー、富中オブザーバー)

3 事務局(市)

市民局長、市民局文化スポーツ部長、スポーツ振興課長、
教育委員会学校教育部指導第一課スポーツ教育担当課長
(市民局長はあいさつ後退席)

会議次第

1 開会

2 議事

- (1) 広島市スポーツ振興計画検討委員会で検討された素案(平成17年3月作成)の施策【第4次広島市基本計画の体系別】について
- (2) 広島市総合計画の改定(次期広島市基本計画の策定)に関する検討状況について
- (3) 市民意識調査の実施について
- (4) 平成21年度スポーツ振興事業について
- (5) 平成21年度スポーツ関係団体に対する補助金の交付について

3 閉会

公開・非公開の別

公開

傍聴者

なし

会議資料

平成20年度第2回広島市スポーツ振興審議会 次第

平成20年度第2回広島市スポーツ振興審議会 配付資料目次

議事の(1)関係

広島市総合計画の体系

広島市スポーツ振興計画検討委員会で検討された素案（平成17年3月作成）の施策【第4次広島市基本計画の体系別】

議事の(2)関係

広島市総合計画の主要改定課題に対する対応策

広島市総合計画の主要改定課題に対する対応策体系図

第1回スポーツ振興計画検討部会（平成21年3月9日開催）での次期基本計画に対する主な意見

議事の(3)関係

スポーツに関する意識調査について（案）

第1回スポーツ振興計画検討部会（平成21年3月9日開催）での意識調査に関する意見とその対応（案）

スポーツ振興に関する取組の現状と今後の課題等について【第1回スポーツ振興計画検討部会（平成21年3月9日開催）提出資料】

広島市のスポーツに関する基礎的データ

議事の(4)関係

平成21年度スポーツ振興事業について

議事の(5)関係

平成21年度スポーツ関係団体に対する補助金の交付について

会議の要旨

1 開会

2 議事（「 発言の要旨」参照）

- (1) 広島市スポーツ振興計画検討委員会で検討された素案（平成17年3月作成）の施策【第4次広島市基本計画の体系別】について
（説明内容について意見等なし）
- (2) 広島市総合計画の改定（次期広島市基本計画の策定）に関する検討状況について
（説明内容について意見等なし）
- (3) 市民意識調査の実施について
（説明内容について意見交換後、了承）
- (4) 平成21年度スポーツ振興事業について
（説明内容について意見等なし）
- (5) 平成21年度スポーツ関係団体に対する補助金の交付について
（説明内容について意見等なし）

3 閉会

発言の要旨

【議事の(1)：広島市スポーツ振興計画検討委員会で検討された素案（平成17年3月作成）の施策【第4次広島市基本計画の体系別】について】

【議事の(2)：広島市総合計画の改定（次期広島市基本計画の策定）に関する検討状況について】
〔東川会長〕

議案の(1)「広島市スポーツ振興計画検討委員会で検討された素案（平成17年3月作成）の施策【第4次広島市基本計画の体系別】について」と、議案の(2)「広島市総合計画の改定（次期広島市基本計画の策定）に関する検討状況について」は関連性があるため、一括して審議する。事務局から説明をお願いします。

〔事務局（スポーツ振興課長）〕

< 配付資料を説明 >

〔東川会長〕

事務局から今進行中の第4次広島市基本計画に基づいて平成17年に素案として広島市スポーツ振興計画がまとまったが、現在第5次の基本計画が進みつつある。それに基づいて再編をして、その骨格が決まった。この骨格に基づいて追加や検討したということであるが、内容について何か御質問等があればお願いします。

< 意見等なし >

〔東川会長〕

部会の中では、「なぜ吉島体育館だけなのか」などの意見が出た。これについては、今の段階の中で整理したということであり、これに特別に特化したということではなく、もう少し緩やかに全体を捉えることも部会では確認した。

〔東川会長〕

この間の部会の中でも、話題として出たのは「スポーツ王国広島」という昔から受け継がれている言葉であるが、「またスポーツ王国広島で本当にいいのか」ということについては多くの意見が出た。これについては、もう少し預らせてもらい計画にも反映できるようにしたらどうかといった意見であったように思う。このことについても「これからの広島市のスポーツのあり方」の柱になるため、中身については審議会、部会に課せられた宿題である。

では、こういった方向で進めるということでもいいか。

< 意見等なし >

では、基本的な方向ということで承認をいただいたということで進めさせていただく。

【議事の(3)：市民意識調査の実施について】

〔東川会長〕

「市民意識調査の実施について」を議題として取り上げる。事務局から説明をお願いします。

〔事務局（スポーツ振興課長）〕

< 配付資料を説明 >

〔東川会長〕

「市民意識調査の実施について」説明をいただいたが何か意見等があればお願いします。

〔本川委員〕

8ページの1年間でよく行ったスポーツや運動を問う質問であるが、競技スポーツの38、39、40の部分で、種目をいくつか括っているが、アンケート結果をまとめる時や分析する時に括るのはいいと思うが、調査の段階で括ったのはなぜか。野外スポーツのところも同様であるが括る必要はないのではないか。

〔文化スポーツ部長〕

言われるとおりである。前回の調査と同様にしたもので、実際調査した時に数が少なかったからだと思うが、修正したい。

〔阪田委員〕

文言の中で、「足を運ぶ」という表現があるが、健常者の立場に立った表現である。

〔文化スポーツ部長〕

配慮が足りなかった。「会場に行く」などの表現に変える。

〔本川委員〕

「軽いスポーツ」という表現であるが、スポーツに「軽い」「重い」というのはいかなものか。

〔東川会長〕

内閣府等が実施している世論調査があるが、それらの表現を踏まえ、全国調査と比較ができるようにこのような表現にしている。

〔本川委員〕

「簡単な」「簡易な」という意味だろうと思うが、「軽いスポーツ」というのは何か軽々しい感じがする。

〔東川会長〕

最近継続して実施されている内容であるため、再度最近の調査と比較して検討する。

〔文化スポーツ部長〕

表現の確認であるが、ここでもニュースポーツとしてグラウンド・ゴルフ、インディアカ、ペタンクが括れているため、分けて記載する。

〔本川委員〕

スポーツ振興に関する取組の現状と今後の課題等についての資料の「学校教育の充実」の市民の意識調査項目「体育の授業以外に、学校で何か運動しているか」とあるが、意識調査の中にはどこに記載されているのか。

〔文化スポーツ部長〕

はじめは、事務局案でこうした形で提案したが、学校の方はすべて教育委員会として、例えば朝の時間や昼休み、放課後等で取り組まれているため、部会での検討の中で落とすことになった。この資料は部会に事務局案として提示したものであるため、若干変わっている部分もあるということで御理解いただきたい。

〔東川会長〕

この内容は、多少預かりの部分もあるが、学校では全校生徒を対象に取組が盛んに行われているため、学校では100%だと思う。では、個人レベルではどうなのかという部分については、学校の中でも個人差があるのではないかという意見もあるようなので、学校での取組を更に推し進める、後押しする意味では追加することを検討したい。

〔本川委員〕

なぜ、そういうことを言うかということ、スポーツや運動というのは基本的には遊びだと思う。遊んでいないことで体力ができていないことを実感している。学校での取組の効果はこれからかもしれないが、授業以外、例えば休憩中や放課後など、現在遊べるステップとしては学校が一番である。いかに学校で体を動かしながら遊ぶかということが一番重要である。遊びを通してスポーツに入ってくる。そういった意味では、この項目はかなり重要である。

〔東川会長〕

部会ではこのことについて、阪田委員から御意見を頂いたがどうか。

〔阪田委員〕

部会で削除について意見を述べたのは、内容的に項目が多すぎるように感じたためである。

〔東川会長〕

学校での体力づくりの取組については、現在学校でどのような取組をしているのかというデータは手に入る状況にある。それは大いに活用しながらも、その取組が、子どもたちの学校での普通の生活の中でどう良い方向に影響を及ぼしているのか。また効果が出ているのかということ調べる意味でも復活させてもいいかもしれない。全体の質問内容のボリュームも考えていきたい。

〔文化スポーツ部長〕

教育委員会では調べたものはあるが、ヒント的な部分を求められた時には、調査結果を活用することが必要となってくるため、中身を確認した上で検討したい。

〔山本委員〕

子どもの中では、「遊び」と「スポーツ」が別々になっている部分もあるので、子どもの目線で質問するのであれば、「遊びとして体を動かす遊びは何が好きですか。」という質問にすると良いと思う。

〔東川会長〕

もう少し子どもたちがイメージしやすいものにすることも大切なので預らせてもらいたい。

〔西野委員〕

子どもに対する質問の中で、「体育の授業を除いて、誰に教えてもらうことが一番多いですか」という質問で、保護者との遊びの中で、保護者との関わりの中でスポーツを行う子どももいると思う。自由の幅を広げるという意味からその他の項目を設け、自由に書き込める欄があると良い。

〔東川会長〕

選択肢の幅をもう少し緩やかにした方が良いかもしれない。その方向で検討する。

〔中本委員〕

8ページの競技スポーツの部分であるが、国体の種目で分けてほしい。例えば、テニスで小学生、中学生がイメージするのはソフトテニスだと思う。テニスとすると子どもたちは迷うと思うので、国体の種目を一つずつ独立させて載せてほしい。

〔東川会長〕

もう一度精査したい。

〔西野委員〕

大人の質問項目の中には、障害者スポーツのことについての質問があるが、可能であれば「それは何か」という質問があると良いのではないかと。また、子どもへの質問にはこの項目がないので、小学校の総合的な学習の時間に、割と車椅子バスケットボールなどの体験をしている学校も多いので、子どもたちの方がよく知っているのではないかと。質問項目に入れるというのはどうか。

〔東川会長〕

全体のボリュームということもあるため、最低限関心・認知については入れるということかどうか。

〔山本委員〕

問40の選択肢のことであるが、実際にやっている人もいるのではないかと思うのでそのことも入れると良い。

〔文化スポーツ部長〕

実際にそういうケースもあるとは思うが、そういう例はかなり少ないと思ったためで大意はない。

〔東川会長〕

選択肢の問題であるが、知っているし、実際やっていることを追加すれば良いと思うが、知っているということのもう一步関わりの状況も併せてできればということだとは思う。

〔鍋島委員〕

先日東京マラソンのテレビを見ていて感じたことであるが、3万5千人の人が参加したが、26万人の応募があって100万円出しても参加したいという人までいるということで石原都知事も参加のあり方を少し考えなければならぬというコメントがあったそうである。

資料(スポーツ振興に関する取組の現状と今後の課題等について)の18ページの(b)の「市民レベルの全国的なスポーツ大会等の開催・誘致に取り組む」というところで、ここの「ひろしま国際平和マラソン」が28回開催されており、30年近く続いている。全国的なイベントを見ると、マラソンは1万人を超えるものが多く、平和マラソンは、現在だいたい6千人くらいだと思うが、参加者が年々少なくなっていると思う。

広島の場合はオリンピックまで検討したいという事務局の意欲からすると「平和の祭典」というのは、平和都市ヒロシマとしては大きな課題であると思う。背景は分からないが、なぜ西区のスタジアムがスタートで平和に関係のない全国どこにでもあるようなマラソン大会を開催しているのか疑問である。東京の都心でもあれだけの大規模なことができて、広島の百米道路を2~3万人の人で埋めて、平和公園発の平和マラソンだったら世界各国から参加したいという人が出てくるのではないかと思う。平和マラソンも歴史を重ねてきたので、見直しという今後の方向の中に「平和の祭典」ということが感じとれるようなものが必要である。

オリンピック誘致は難しいが、そういったことも合わせて「平和の祭典」のあり方の中で、市民がこれからどういうものを求めているのかを検討する必要があると思う。平和公園発着の平和マラソンというものは市民の期待が高いと思うし、そういうアプローチの仕方が今後必要のような気がする。

〔文化スポーツ部長〕

平和マラソンについては、参加者をあまり拡大しすぎるのも場所的な問題や運営上の問題でどうかと思うが、警察から許可をしてもらえないという問題もある。男子駅伝では平和公園前の発着で開催するが、この駅伝一つを開催することが精一杯で、平和マラソンで百米道路を使うのであれば、駅伝を止めてほしいということになる。特に平和マラソンは参加者の数が多いことから県警サイドの問題があり難しいという実情がある。

また、「平和の祭典」としてオリンピックを検討するということであるが、事務局としても基本構想でもそういう方向性を持ちたいというのはあるが、具体的に何をするのかということがあり、なかなか具体的なことが書けない。「平和の祭典」としての平和マラソンについてもこれまでそういった気持ちは持っており、検討した時期はあるが、実現にもっていくとなると難しい。

〔天野委員〕

第10回までは30kmマラソンを行っていた。その後県警との協議の結果、現在は10

kmが最長となっている。ハーフマラソンも開催したいし、平和公園を発着にしたいが、男子駅伝を開催している関係で、11月から翌年1月の3か月間という短い期間に平和公園を二度に渡って発着点にすることは、県警から許可がおりない。現在の平和マラソンは、少し盛り返しており、昨年は8千人の参加があった。1万人規模くらいのハーフマラソンにしたいが今のところは難しい状況である。日本陸連も男子駅伝に続き、平和マラソンを42.195kmにするのはあまりいい返事はしないと思う。

ただし、これは政治の話になってくるので、石原都知事があのような形でやろうとリーダーシップを発揮したので、市長や知事が政治力を発揮すれば可能性としてはまったく残っていないわけではない。

〔東川会長〕

平和マラソンに限らず、スポーツの祭典として何かプッシュするものが内容として考えられないかということだろうと思う。

平和マラソンで言うと、これまで4千人まで参加者が落ちた時期があったが、現在は8千人まで回復した。過去には1万2千人くらいが最高であった。関係者の中では、鍋島委員が言われているようなことは出ている。今後は夢として何らかの形で反映させることができるかもしれない。

〔西野委員〕

大人と子どもの調査用紙の件であるが、大人の調査用紙の「その他」には括弧が付いているが、子どもの方の「その他」には括弧が付いていない。括弧があれば何か意見が出てくるのではないかと思う。

〔東川会長〕

括弧を付けるということにしたい。

その他、表現の仕方であるが、大人の13ページの間27「スポーツ施設においてどのような教室に参加したことがあるか」でどこのスポーツ施設なのか、また「国際スポーツ交流活動に関わったことがあるか」という質問など、趣旨は分かるが答える方の立場から見たときにこれは何かと思うのではないか。

また、意識しなくてはならないのは、前回と比べてどうかとか全国の傾向と比べてどうかなどが一つの尺度になってくるのでこれらのことも考えなくてはならない。

基本的な方向としては、委員の意見を盛り込みながら、反映させながら調査票を作っていくことで了解いただきたい。その後意見が反映されているかや、表現の仕方に問題がないかなどについては、私と前回の調査の集計に携わった曾根委員と事務局で最終的なチェックをして成案とさせてもらいたいどうか。

< 異議なし >

【議事の(4)：平成21年度スポーツ振興事業について】

【議事の(5)：平成21年度スポーツ関係団体に対する補助金の交付について】

〔東川会長〕

議案の(4)「平成21年度スポーツ振興事業について」と、議案の(5)「平成21年度スポーツ関係団体に対する補助金の交付について」は関連性があるため、一括して審議する。事務局から説明をお願いします。

〔事務局(スポーツ振興課長)〕

< 配付資料を説明 >

〔東川会長〕

「平成21年度スポーツ振興事業について」と「平成21年度スポーツ関係団体に対する補助金の交付について」の説明をいただいたが何か意見等があればお願いします。

<意見等なし>

〔東川会長〕

事務局から連絡事項等何かあるか。

〔事務局（スポーツ振興課長）〕

次回の審議会は9月に予定している。その間部会において市民調査の結果を踏まえながらスポーツ振興計画の検討を行う予定である。次回の部会は5月頃に開催する予定であるが日程が決まり次第連絡する。

〔東川会長〕

これから具体的な調査の実施となる。今後もしろいろ御意見を頂くこともあるかと思うが御協力をお願いしたい。

【閉会】

〔東川会長〕

以上で本日の審議会を閉会とさせていただきます。